【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成18年11月30日(2006.11.30)

【公開番号】特開2005-154358(P2005-154358A)
【公開日】平成17年6月16日(2005.6.16)
【年通号数】公開・登録公報2005-023
【出願番号】特願2003-396513(P2003-396513)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　8/00　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　1/14　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　7/02　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成18年10月17日(2006.10.17)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項５】
前記ラウロイルザルコシンの炭素数１～４のエステルの含有量が、０．１～１０質量％であることを特徴とする、請求項４に記載のクレンジング用の化粧料。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
この様な状況に鑑みて、本発明者らは、その使用過程に於いて、刺激発現性が極めて低いクレンジング用の化粧料を求めて、鋭意研究努力を重ねた結果、１）粉体１０～６０質量％と、２）１気圧２５℃で液体の油性成分１０～８５質量％と、３）ラウロイルザルコシンの炭素数１～４のエステルを含有し、且つ、４）水の含有量が５質量％以下である構成の化粧料がその様な特性を有していることを見出し、発明を完成させるに至った。即ち、本発明は以下に示す技術に関するものである。
（１）クレンジング用の化粧料であって、１）粉体１０～６０質量％と、２）１気圧２５℃で液体の油性成分１０～８５質量％と、３）ラウロイルザルコシンの炭素数１～４のエステルを含有し、且つ、４）水の含有量が５質量％以下であることを特徴とする、クレンジング用の化粧料。
（２）前記粉体が、マイカ、セリサイト、カオリン、シリカ、アルミナ、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、珪酸カルシウム、珪酸マグネシウム、ベントナイト、デンプン、セルロース、乳糖、ショ糖及びデキストリンから選択される１種乃至は２種以上であることを特徴とする、請求項１に記載のクレンジング用の化粧料。
（３）１気圧２５℃で液体の油性成分が、炭化水素、脂肪酸と炭素数８～２４の高級アルコールのエステル、グリセリンのトリ脂肪酸エステル、ジグリセリンのテトラ脂肪酸エステル、トリグリセリンのペンタ脂肪酸エステル及びシリコーンから選択される１種乃至は２種以上であることを特徴とする、（１）又は（２）に記載のクレンジング用の化粧料。
（４）前記ラウロイルザルコシンの炭素数１～４のエステルが、イソプロピルエステル乃至はｎ－ブチルエステルであることを特徴とする、（１）～（３）何れか１項に記載のク

レンジング用の化粧料。
（５）前記ラウロイルザルコシンの炭素数１～４のエステルの含有量が、０．１～１０質量％であることを特徴とする、（４）に記載のクレンジング用の化粧料。
（６）実質的に水を含有しないものであることを特徴とする、（１）～（５）何れか１項に記載のクレンジング用の化粧料。
（７）防腐剤を含有しないことを特徴とする、（１）～（６）何れか１項に記載のクレンジング用の化粧料。
（８）ポリオキシエチレン付加構造の化合物を含有しないことを特徴とする、（１）～（７）何れか１項に記載のクレンジング用の化粧料。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
（１）本発明の化粧料の必須成分である粉体
本発明の化粧料は、クレンジング用の化粧料であって、粉体を１０～６０質量％、より好ましくは１５～４０質量％含有することを特徴とする。本発明の化粧料に使用できる粉体としては、化粧料で使用される粉体であれば特段の限定無く使用でき、例えば、タルク、マイカ、セリサイト、カオリン、シリカ、アルミナ、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、珪酸カルシウム、珪酸マグネシウム、ベントナイト、チタンマイカ、チタンセリサイトなどの鉱物性粉体、ポリメタクリル酸メチル、ナイロン粉末、ポリエチレン粉末、ポリプロピレン粉末、メチルシロキサン網状重合体、ジメチルポリシロキサン部分架橋化物等のポリマー粉体、デンプン、セルロース、乳糖、ショ糖、デキストリン等の有機粉体などが例示でき、これらは表面をシリコーン焼き付け処理、シリル化処理、金属石けん被覆処理、アシル化アミノ酸塩被覆処理、リン脂質被覆処理などの被覆処理を行っていても良い。特に好ましい粉体としては、マイカ、セリサイト、カオリン、シリカ、アルミナ、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、珪酸カルシウム、珪酸マグネシウム、ベントナイト、デンプン、セルロース、乳糖、ショ糖乃至はデキストリンが例示できる。これらは唯一種を含有させることも出来るし、二種以上を組み合わせて含有させることも出来る。本発明の化粧料に於いて、かかる粉体は、１）皮膚に付着した汚れを吸着し、その除去を補助する、２）化粧料の油剤が皮膚より離脱するのを補助する、３）チキソトロピックな構造を形成し、化粧料の製剤を安定に保つの役割を担っている。これらの粉体は、前記の量範囲に存することでかかる効果を奏する。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
（２）本発明の化粧料の必須成分である油性成分
本発明の化粧料は、クレンジング用の化粧料であって、１気圧２５℃で液体の油性成分１０～８５質量％、より好ましくは４０～８０質量％を含有することを特徴とする。１気圧２５℃で液体の油性成分としては、化粧料で使用されている液体脂に分類されるものであれば特段の限定無く使用することが出来、例えば、軽質イソパラフィン、流動パラフィン、スクワラン、重質イソパラフィン等の炭化水素、ネオペンチルグリコールジイソオクタネート、ネオペンチルグリコールジイソステアレート、エチレングリコールジイソステアレート、プロピレングリコールジオレート等の二価アルコールと炭素数８～２４の脂肪酸のジエステル、イソプロピルミリステートなどの低級アルコールと炭素数８～１４の脂肪酸のエステル、ホホバ油、セチルイソオクタネートなどの脂肪酸と炭素数８～２４の高級

アルコールのエステル、オリーブ油、ひまし油、グリセリルトリイソオクタネート等のグリセリンのトリ脂肪酸エステル、ジグリセリンテトライソステアレートやジグリセリンテトラオレートのようなジグリセリンのテトラ脂肪酸エステル、トリグリセリンペンタイソステアレート、トリグリセリンペンタオレート等のトリグリセリンのペンタ脂肪酸エステル、ジメチコン、シクロメチコン、フェニルメチコン等のシリコーン等が好適に例示でき、より好ましくは炭化水素、脂肪酸と炭素数８～２４の高級アルコールのエステル、グリセリンのトリ脂肪酸エステル、ジグリセリンのテトラ脂肪酸エステル、トリグリセリンのペンタ脂肪酸エステル或いはシリコーンが好ましく例示でき、炭化水素、シリコーン或いはジグリセリンのテトラ脂肪酸エステルが更に好ましい。これは溶剤効果による。これらの油性成分は唯一種を含有することも出来るし、二種以上を組み合わせて含有させることも出来る。本発明の化粧料に於いて、皮膚の付着した脂汚れなどの汚れを溶剤効果によって皮膚より離脱させ、前記粉体の効果を合わせて、洗浄に用いる、拭き取り化粧水や流水などの水性媒体中へ分散させる作用を有する。この様な作用を発現するためには、前記量範囲にあることが必要である。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
（４）本発明の化粧料における水
本発明の化粧料は、クレンジング用の化粧料であって、水分の含有量が５質量％以下、より好ましくは実質的に含有しない形態を取ることを特徴とする。ここで、「実質的に含有しない」とは、構成する原料が存在する状態で自然に含有する水分までも積極的に除去する努力まではしないが、意志を持って水を配合しないことを意味する。本発明の化粧料に於いて、水は粉体や油性成分の作用を妨げたり、系の安定性を損ねたりするため、この様にその存在量を限局することが好ましい。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
（４）本発明の化粧料
本発明の化粧料は、クレンジング用の化粧料であって、前記の必須構成要素を備えることを特徴とする。本発明の化粧料のクレンジング効果を発揮する対象は、リップカラー、ファンデーション、アイカラー、マスカラ、アイライナー、チークカラー等の油性成分を含有するメークアップ化粧料や、二酸化チタンや酸化亜鉛などを含有する紫外線防護用の化粧料、皮脂などの脂汚れである。かかる脂汚れを、油性成分の溶剤効果と、粉体類の吸着効果とラウロイルザルコシンの炭素数１～４のエステルの疎油性成分の油性成分への分散効果を利用して除去することが本発明のクレンジング用の化粧料の特徴である。特に好適な対象としては、かかる脂汚れと、角層、タンパク、コアシェル型の樹脂などが複合して形成された汚れである。この為、本発明の化粧料では、乳化を目的とする界面活性剤の存在を必須としない。従って、過敏な肌質の人に刺激を感じさせる場合の存するポリオキシエチレン付加物を含有する必要が無く、この様な成分を含有しない形態が本発明の化粧料としては好ましい。前記ポリオキシエチレン付加物としては、非イオン界面活性剤やポリエチレングリコールのような成分が例示できる。本発明の化粧料に於いては、この様な成分を除いて、本発明の化粧料の効果を妨げない範囲に於いて、通常化粧料で使用される任意成分を含有することが出来る。この様な任意成分としては、例えば、硬化ヤシ油、硬化油、モクロウ、硬化ヒマシ油、ミツロウ、キャンデリラロウ、カルナウバロウ、イボタロ

ウ、ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、ホホバロウ等のワックス類、オゾケライト、パラフィン、セレシン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス等の液体でない炭化水素類、オレイン酸、イソステアリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、ウンデシレン酸等の高級脂肪酸類、セチルアルコール、ステアリルアルコール、イソステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、オクチルドデカノール、ミリスチルアルコール、セトステアリルアルコール等の高級アルコール等、脂肪酸セッケン（ラウリン酸ナトリウム、パルミチン酸ナトリウム等）、ラウリル硫酸カリウム、アルキル硫酸トリエタノールアミンエーテル等のアニオン界面活性剤類、塩化ステアリルトリメチルアンモニウム、塩化ベンザルコニウム、ラウリルアミンオキサイド等のカチオン界面活性剤類、イミダゾリン系両性界面活性剤（２－ココイル－２－イミダゾリニウムヒドロキサイド－１－カルボキシエチロキシ２ナトリウム塩等）、ベタイン系界面活性剤（アルキルベタイン、アミドベタイン、スルホベタイン等）、アシルメチルタウリン等の両性界面活性剤類、ソルビタン脂肪酸エステル類（ソルビタンモノステアレート、セスキオレイン酸ソルビタン等）、グリセリン脂肪酸類（モノステアリン酸グリセリン等）、プロピレングリコール脂肪酸エステル類（モノステアリン酸プロピレングリコール等）、グリセリンアルキルエーテル、ショ糖脂肪酸エステル、アルキルグルコシド等の非イオン界面活性剤類、ポリエチレングリコール、グリセリン、１，３－ブチレングリコール、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、ジグリセリン、イソプレングリコール、１，２－ペンタンジオール、２，４－ヘキシレングリコール、１，２－ヘキサンジオール、１，２－オクタンジオール等の多価アルコール類、ピロリドンカルボン酸ナトリウム、乳酸、乳酸ナトリウム等の保湿成分類、グアガム、クインスシード、カラギーナン、ガラクタン、アラビアガム、ペクチン、マンナン、デンプン、キサンタンガム、カードラン、メチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、カルボキシメチルセルロース、メチルヒドロキシプロピルセルロース、コンドロイチン硫酸、デルマタン硫酸、グリコーゲン、ヘパラン硫酸、ヒアルロン酸、ヒアルロン酸ナトリウム、トラガントガム、ケラタン硫酸、コンドロイチン、ムコイチン硫酸、ヒドロキシエチルグアガム、カルボキシメチルグアガム、デキストラン、ケラト硫酸，ローカストビーンガム，サクシノグルカン，カロニン酸，キチン，キトサン、カルボキシメチルキチン、寒天、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、カルボキシビニルポリマー、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリエチレングリコール、ベントナイト等の増粘剤、レーキ化されていても良い赤色２０２号、赤色２２８号、赤色２２６号、黄色４号、青色４０４号、黄色５号、赤色５０５号、赤色２３０号、赤色２２３号、橙色２０１号、赤色２１３号、黄色２０４号、黄色２０３号、青色１号、緑色２０１号、紫色２０１号、赤色２０４号等の有機色素類、パラアミノ安息香酸系紫外線吸収剤、アントラニル酸系紫外線吸収剤、サリチル酸系紫外線吸収剤、桂皮酸系紫外線吸収剤、ベンゾフェノン系紫外線吸収剤、糖系紫外線吸収剤、２－（２'－ヒドロキシ－５'－ｔ－オクチルフェニル）ベンゾトリアゾール、４－メトキシ－４'－ｔ－ブチルジベンゾイルメタン等の紫外線吸収剤類、エタノール、イソプロパノール等の低級アルコール類、ビタミンＡ又はその誘導体、ビタミンB_6塩酸塩，ビタミンB_6トリパルミテート，ビタミンB_6ジオクタノエート，ビタミンB_2又はその誘導体，ビタミンB_{12}，ビタミンB_{15}又はその誘導体等のビタミンＢ類、α－トコフェロール，β－トコフェロール，γ－トコフェロール，ビタミンＥアセテート等のビタミンＥ類、ビタミンＤ類、ビタミンＨ、パントテン酸、パンテチン、ピロロキノリンキノン等のビタミン類などが好ましく例示できる。これらの必須成分や任意成分を常法に従って処理することにより、本発明の化粧料は製造することが出来る。